

ブナ等稚樹の山取と火おこし体験を実施 ~ 『土湯の森』の自然再生に向けて ~

10月25日(土)雨の合間をぬって、スキー場跡地下部の自然推移ゾーン内から来年植え付けするブナ等の稚樹を山取しました。

今回は戸沢村の神田小学校から参加してくれた親子をはじめ、地元住民や神室山系の自然を守る会から協力をいただきながら、参加者20名で約400本をポットへと移植しました。



移植ペラで稚樹を山取

山取した樹種は、ブナを主にミズナラやイタヤカエデなど高木性の樹木です。

スキー場跡地下部の自然推移ゾーン内の固い土壌から掘り採ることとなったため、子供たちには少し大変な作業となりました。



参加者の皆さん

途中、ススキの茎に産みつけられたオオカマキリの卵を見つけ、「家に持っていく」と楽しそうに話してくれる子供もいました。

「暖かい部屋では、季節をまちがえて数百匹の子供が生まれてしまうこともあるので注意してね」と伝えましたが、さてどうしたでしょう？

予定数量を確保した後は、火おこし体験に取り組んでみました。

今回は、弓ぎりと舞ぎりを使ってみましたが、煙が出る所まではいくものの、なかなか火をつけることができません。

風がある野外での体験という悪条件ではあったものの汗をかいて奮闘した結果、ようやく1組が火おこしに成功してくれました。



火おこし体験(舞ぎり編)

古代人の生活の大変さが身にしみた体験となりましたが、最後は炭火で作った焼きいもと角川のお母さん手作り角川弁当(森の恵み秋バージョン)をみんなでおいしくいただきました。



仮植場所

11月19日、前日から降った雪でポットに仮植してあるブナなどの稚樹は、枯れた葉を付けたまま、白くなっていました。

このまま冬を越し、来年の雪消えを待ってスキー場跡地へ植栽することとなります。